

## キミとボクとの静脈角

歯学科2年 山本 悠

ガガガガ、ドドドド、ガタガタガタ。

歯学部の「今」について考えたとき、真っ先にこのオトが浮かんできた。歯学部棟の改修工事と他の工事もあり、旭町キャンパスは大賑わいである。最近では講義室に行くために通らなければならない「ボイラー室」が「サウナ室」になってしまった。入った瞬間にメガネが曇るほどである。

今書いたのを見ると、愚痴を言っているのかと思われるが、そのようなことはいっさいない。「やだなあ」などと思ったことは、まったく、ない。なぜなら、この工事は我々歯学部キャンパスを使う者の「ため」だからである。よりよい歯学部にして頂く。そう思っているし、とても有難いと思っている。そして完成が楽しみである。そんな工事のおかげで学べたことがある。

それは、病院というものを患者様にとって、よりよいものにする、通いやすくするというこゝも、治療と同じくらい重要なのだ、ということである。

先日、医歯総合病院に行った時のことである。幼稚園生くらいの男の子とお母さんが、窓から外をみてニコニコしていた。「あれがダンプカーで、ショベルカーで、ローラー車、だよ」と子供が楽しそうに話していた。まさに、典型的な幼稚園の男の子である。二人は少し話をして最後にお母さんがこう言った。「またブーブー見に来ようね」と。私は、この言葉に脱帽であった。病院は子供にとっては、苦痛な場所で、行きたくない所である。知らない大人が沢山いるし、痛いこともある。が、そこが楽しい場所になったとたん、子供は喜んで来るのである。そのお母さんは、病院というものを楽しいものに変えてくれた。

医療環境にも関心を持たなければならない。

よりよい治療を提供することはもちろんである

が、その治療を受けられる環境を作り、整えていくことも、同じくらい大切である。これからの超高齢社会では、今まで以上に、来院できない患者様も増えていくだろう。そのような時は、我々が出向く、いわゆる「訪問医療」ということも考えていないといけな。技術、知識だけ持っていても、その「力」を発揮できる場がなければ意味がない。治療をする環境も含め、多面的に医療について考えなければならない。

みなさんは、金 美齢さんをご存じだろうか。TVに出演されたり、著書も多く出版されている。著書の一冊、その中のある一節に聖書の「やもめのレプタ」についてのお話があった。簡潔にいうと以下である。

やもめとは、未亡人、レプタとは一番少額の銅貨である。イエスが生きていた時代の、エルサレムの神殿に、お賽銭箱があった。ある日、一人の未亡人がレプタ銅貨を2枚入れた。それを見たイエスは「彼女は、他の誰よりも多く入れた。」といった。

これだけではよくわからないが、次の一文で、この話の意味がわかる。「2枚のレプタ銅貨は、やもめの生活費の全部だった。」

この話の問題は、「いくら入れたのかということではない。自分のできるだけのことをしたかどうか。」である。私はこれを「背伸びをしない」というふうに解釈した。

自分の手の届く範囲で、精一杯行動する。しかし、背伸びはしない。背伸びをすれば、届く範囲は多くなるだろうが、足元はおぼつかないし、ふらふらしてしまう。そんな状態で、何ができるのだろうか。できたとしても、完璧なものだろうか。

今、我々2年生に、歯の治療をしなさいと言わ

れても、それは不可能である。背伸びをしても、届かないし、到底無理なことである。しかし、臨床の下の、下の、もっと下にある、基礎の勉強なら、我々にはできる。そこで様々な知識、技術を得て、その「力」で成長できれば、背伸びでしか届かなかった場所に、あら、不思議、すんなりと手が届くのである。

とは言っても、そう簡単には「背」は高くなるものではない。背を伸ばすには、時間や、努力が必要である。そして様々な困難が待ち受けている。しかしながら、この困難を乗り越えれば、成長できる。つまり、これは困難ではなく、自分を高められるチャンスなのである。

これから、勉強だけでなく、大学生活では様々な困難にぶちあたると思う。今もぶち当たっている、かもしれない。しかし、それを、自分自身を成長させてくれるチャンスであると捉えて、全力で取り組み、少しずつ「背」を伸ばしていきたい。

最後に、去年に引き続き、私の好きな言葉を一つ。

「悲観主義者はあらゆるチャンスに困難を見いだす。」

「楽観主義者はあらゆる困難にチャンスを見いだす。」

ちなみに、私の座右の銘でもある。



# 歯学生のいま（3年生）

歯学科3年 森 下 綾

こんにちは。歯学部歯学科3年森下綾です。私たち歯学科3年の楽しい学校生活について真面目に紹介させていただきたいと思います。

第一に勉強についてです。歯学科3年前期の勉強といえば、人体解剖学実習です。2年生のときに学んだ脈管内臓学などの総まとめと言っても過言ではありません。3年前期はこの人体解剖学実習の勉強に追われました。予習、実習、復習の繰り返しで身体的にも精神的にも辛いと感じることもありました。しかし人体解剖学実習から多くのことを学ぶことは出来ました。人体の構造はもちろんですが、やはり身に染みて感じられたのは生命の倫理、尊さです。献体してくださった方、そのご家族の皆さんには感謝の気持ちでいっぱいです。また8、9時間におよぶ実習を支えてくださった先生方にも心から感謝申し上げます。ありがとうございました。また細菌学や生体機能学などより臨床に近いことを学びはじめました。

第二に部活動についてです。4、5月にはほとんどの部活で北日本大会があります。私はバスケットボール部のマネージャーをしているのですが、まさかの男女ともに全敗という結果となりました。残念です。しかしかわいい1年生がたくさ

ん入ってきてくれたので、これからのバスケットボール部の活躍にご期待ください。

第三に運動会についてです。前期には学年対抗の運動会が行われます。学年ごとにクラスTシャツを作成し、玉入れや学年対抗リレーなど童心にかえて全力で楽しむイベントです。今年は人体解剖学実習があったこともありクラスの仲が段違いに良くなり、今までのイベントの中で最も盛り上がりました。また3年生になったということもあり、全員がお酒を飲める歳となり、運動会のあとの打ち上げも楽しかったです。

他に特筆すべきことが見当たらないので最後に歯学科3年の仲について徒然なるままに書き連ねたいと思います。私たち47期生は正直3年になるまで仲はまあまあでした。本当にまあまあ、悪くもなく良くもなく普通でした。しかし人体解剖実習で週に2回9、10時間一緒にいると嫌でも仲良くなります。私の班の仲の良さは気持ち悪いほどで、実習で長時間一緒にいるのにその後夜ご飯を必ず一緒に食べにいきます。また2週間に1回前後のペースで飲み会をします。また勉強で忙しく、飲み会をしている場合ではないときはアイスを食べるためだけに公園に行き無邪気にブランコや



シーソーで遊んだこともあります。他の班もきつと似たり寄つたりの仲の良さでしょう。またクラス全体では海でバーベキューや花火をすることを企画したり、クラスの友達一人ひとりの誕生会をしたりと勉強に忙しくしながらも楽しみながらクラス皆で乗り越えています。他の4年制の大学や学科では想像できない大学生活ですが、少しは分かっていたでしょうか。47期生はみんな毎日の生活が楽しくてしょうがないと思っていたらいて大丈夫です。3年の後期から実習が始まり、

歯科医師は向いてないのではないかと思います。悩むこともあると聞きますが、クラス皆で支え合って乗り越えていきたいと思います。むしろ私はかなりの不器用なので支えてもらいたいと思っています。これからの大学生活を人生の糧とすべく勉強に遊びに励んでいきます。このように楽しい大学生生活を送らせてくれている家族特に両親、友人、先生方に感謝します。47期生みんなでいろいろがんばります。



# 歯学生のいま

歯学科4年 鈴木 兼一郎

これから新潟大学歯学部に入學してから4年経った今の生活について書こうと思う。4年生になって大学生活の半分を終え、自分が歯科医として働くようになる日もそんなに遠くはないと感じるようになってきた。講義の内容も基礎医学から歯科の専門の内容に変わりつつある。また、実習も始まり、日々良い歯科医になるために努力している最中である。実習は初めての体験のものが多く、予習ビデオや先生方のデモを見ても、自分が行くと上手くできないことが多い。そのせいか、実習があった日は心身共にとても疲れてしまう。そして、自分の不器用さには日々落胆している。現在の実習の出来具合からは、あと3年で歯科医になるとは間違っても言えない。まだ歯科医になるまでには多くの時間があるので、と言ってもまだまだ学ぶべきことはたくさんあるが、その時までには実習などで経験を積み、臨床の場に出ても恥ずかしくないようにしたい。現在は総義歯を作成する実習を行っているが、自分が作る義歯は患者の立場から見れば、入れ歯というより子供が作ったおもちゃと言った方が適した表現のように思うような出来である。あと3年で患者様に使っていただけるような義歯を作れるような技術を習得することは必要不可欠なことだと感じているので、日々の実習には全力で望みたい。

講義のことについては、4年生になってからもう1つ変わったことがある。それは隣接医学の講義が始まったことである。隣接医学とは歯科の立場から見れば、内科、外科などの主に医科の分野で専門としている分野である。現在の日本ではインターネットが普及し、患者様の中でも多くの方がさまざまな疾患に対する知識を持っている。糖尿病などの生活習慣病の人も増加傾向にあり、おそらく大病院の歯科の外来に来る人の中にも生活習慣病を患っている人が多くいることだろう。

このような人たちは歯科医を医師の中の一人としてみなしている。なので、歯科の診療中にも自分が患っている疾患や、生活習慣病などのことについて聞いてくるだろうと思われる。この時に、歯科医なのでそのような疾患に対する知識はありませんといいのだろうか。歯科医よりも患者様の方が病気に対する知識があるという事態は決してあってはならないことだと思う。歯科医は、医療関係者の一人として、また医師としてこのような患者様の質問に答える義務があるのではないかと思う。実習などもあり、現在聴講中の隣接医学の分野は疎かになりがちだが、患者様から信頼されるような歯科医になるには欠かせない知識だと思うので、しっかり勉強し、自分のものにしていきたいと思う。

最後に、現在の私生活について少し書かせてもらいたい。新潟の地に初めて足を踏み入れた時から3年が過ぎ、新潟で大学生活4年目を送っている。これを言ったら新潟出身の人からおそらく反感を買うと思うが、新潟の気候はやはり過ごしにくい。夏は暑く冬は寒い、更に雪も多い。そして、春と秋はない。新潟での生活は4年目になるが、未だに冬の寒さと雪の多さには慣れない。おそらく、このまま卒業まで新潟の冬と戦うことになると思う。ただ、悪いことばかりでなくいいこともあり、1年生の時も言ったと思うが、田舎出身の自分からすれば新潟は都会だ。実家（福島）に帰るたびに新潟の都会具合を実感する。残り2年と少し新潟にいることになるが、1回でいいので、雪が降らない冬を経験したい。冬は買い物に行けないため、毎年餓死寸前まで追いやられる。歯科医になるため、自分は卒業するまで新潟の冬と戦い続けたいと思う。なので、この文章を読んでもくださった方々には、自分が餓死しないように祈っていただければ幸いである。

# 歯学部は今（5年生）

歯学科5年 久保田 尚

4月に進級して3ヶ月が経過しようとしています。

5年生では10月から約1年間に亘って行われる臨床本実習に向けて、その柱となる3つの授業が始まります。これは4年生までの分野ごとの知識習得のための授業とは異なり、歯科臨床で遭遇するさまざまな疾患を統合的に診断・治療していくために必要な理論・技術を学びます。具体的には、総合模型実習、PBL（PBL：Problem Based Learning）と臨床予備実習（ポリクリ）です。4月から総合模型実習とPBL、5月からは臨床予備実習（ポリクリ）が実施されます。そして、これらの締め括りとして、8月にCBT（CBT：Computer Based Testing）、9月にはOSCE（OSCE：Objective Structured Clinical Examination）が行われ、定期試験と合わせてこの2つの試験をクリアした者が臨床本実習へ参加できる仕組みになっています。

3つの授業について説明します。1つ目は総合模型実習です。総合模型実習では、う蝕、歯周疾患、歯の欠損などの歯科疾患を再現した模型を使用して、1口腔単位の治療を想定した実習を行います。治療計画を立案し、その治療計画に沿って支台歯形成、抜歯、スケーリング、部分床義歯作成等の治療を行います。これにより、分野ごとに学んできた実習の内容を臨床に近い形で統合的に理解し、実践する能力を学ぶことができます。

2つ目はPBLです。これは1グループ7～8名の学生と1名のファシリテーターで構成されています。グループごとに顎顔面領域に発生する具体的な症例が課題として与えられ、課題から問題点を抽出し、既習の学識と照らし合わせ仮説を立てます。その後、仮説を立証するのに必要な学習課題を定め自己学習し、グループ討論を行い与えられた課題を解決します。そして、各症例の終了時には講義によるフィードバックが行われます。

このことにより自身で問題点を発見し、その解決方法を見つけ出す能力、さらにグループ内での協調性を養うことができます。

最後に臨床予備実習（ポリクリ）ですが、これは、今までの講義、総合模型実習と臨床本実習の架け橋をなす実習でOSCEの対策も含まれます。1グループ8～9名で5月から9月にかけて各専門診療室を回り、そこで定めるプログラムに従い、講義、外来見学や学生同士での相互実習を行うことで、これまでの学習内容を実際の臨床の場で適用するために必要な知識や技術、倫理観、コミュニケーション能力を学びます。私たちの班が今までに回った診療室と実習内容を紹介します。口腔再建外科・顎顔面口腔外科診療室では診察に必要な問診・診察の内容、感染対策に配慮した手洗い、採血法、切開・縫合・止血などの外科的基本手技等を学びます。初めて「人」を相手に針を刺すことを体験するのもこの実習です。歯科麻酔診療室ではバイタルサインの把握、点滴セットの組立て静脈路の確保、口腔外科領域での伝達麻酔基本手技等を学びます。冠・ブリッジ診療科診察室では、模型上での支台歯形成やTEKの製作。また相互実習では圧排糸での歯肉圧排など臨床実習を行う上で必要な基本的な技術を身に付けます。歯科総合診察部では、相互実習を通じて病院実習に相応しい接遇態度と医療面接について学びます。

以上の様なことが、臨床本実習に向けての柱となる3つの授業として実施されています。しかし、CBTの試験に不合格であるとその先に進むことができません。当然に臨床本実習を受けることが許されません。そのため4つ目の柱（？）としてCBTの自主学習が挙げられます。学生の身分としては、通常であれば夏休みである時期に実施されるこのCBTを理不尽に思いつつ、時間を見つけて学習を行っているというのが6月末の「歯学部5年生の今」です。

# 臨床実習の今

歯学科6年 砂田 悠香子

私は今、臨床実習に参加させていただき、滝のような冷や汗をかきながら、実際に患者様と向き合い、先生方に叱咤激励をしていただきながら毎日を過ごしています。レポートの締め切りや、その他もろもろの締め切りなど、締め切りだらけで息もつけず、精神的に参ってしまいそうな毎日ですが、臨床実習も折り返し地点を過ぎ、早くも引継ぎの迫る時期に突入しています。そんな私の臨床実習について、拙い文章ですが少しだけ紹介させていただきます。

ポリクリが終了し、夏休みに CBT をなんとか終えて、頭が真っ白、声が震えて仕方なかった OSCE を終え、ついに昨年の10月、臨床実習がスタートしました。言葉使いに、患者様への気配り、ライターの先生方への報告。1つ学年が違うだけで先輩がこんなにも大人に見えるのかあと面食らった引継ぎ診療と係のお仕事。昨日まで就職活動もしたことの無い学生の私は、いきなり社会にポンと投げ出されたような気分でした。

そして、優しい先輩方にいろいろと手取り足取り教えていただき、先輩方の後ろに隠れながら診療を見ていた1ヶ月はあっという間に終わり、先輩方はいらっしやらなくなってしまいました。自分の患者様のことをしっかり把握し、講義の時とは一味違った厳しめの顔をしている先生方と1対1でお話をしながら一人で診療をする日々。そんな風に毎日オエツオエえすきながら、胃をキリキリさせて診療をしている中、やっと勝手がわかり始め、少し愛着すら感じはじめていた外来が、忘れもしない11月26日、幸か不幸か、50年に1度といわれる「移転」となってしまいました。私はあろうことか移転してきて初日に、初めてお会いする患者様の予約を入れてしまい、まだだれも使ったことのない新品のユニットで診療をすることになってしまいました。慣れない操作でユニットを倒すことすらままならず、新築のお家のような嗅ぎ慣れない臭いに酔いながら、どっぷり疲れて診

療を終えたときは、本当にこれからやっていけるんだろうかと本気で心配になりました。今でも、次の日の診療のことを考えると不安になり、「外来行きたくないなあ。」なんて不謹慎なことを考えてしまいますが、最近は少しは成長したのか、外来の未だ新築の臭いの残る空気を吸うと、ピリッと気持ちが引き締まります。

そんな私の臨床実習を支えてくれているのは、他にもない患者様とライターの先生方そして44期生のみんなです。私たちのような免許も持っていない学生のために長時間お口をあけていただき、つたない診療で苦痛を強いることもあるのにもかかわらず、笑顔で「私でたくさん勉強してね。」と言って下さる患者様には本当に本当に頭が下がります。そして、ときに厳しくときに優しく父や母のように見守ってくださる先生方のお叱りから学ぶことはとても多く、物わがりの悪い私でも、少しずつではありますが、成長しているのかなと思っています。そして、外来で診療中の時や、技工室で煮詰まった時、次に予定している診療の内容がまるで想像できない時など、困ったときはいつでも手を貸してくれる44期生のみんなには本当に感謝してもきれません。本当に、私たちの臨床実習はいろいろな人たちに支えられながら成り立っている、これ以上ないくらい最高の環境なんだと最近しみじみ思います。これから先もたくさんの方々にこの環境を引き継げるよう、また大量の冷や汗をかきながらあと2ヶ月ほどの臨床実習を気を抜かずに精一杯勉強させていただきたいと思います。本当に拙い文章となってしまいましたが、最後まで読んでいただき、ありがとうございました。

最後にこの場をお借りして臨床実習に協力していただいている患者様方、熱心に指導して下さる先生方、根性なしの私を優しく励ましてくれる友人たち、そしていつも私を支えてくれる両親に…本当にありがとうございます。



## 6年生の今

歯学科6年 竹内亮祐

歯学科6年の竹内亮祐です。

現在、私達歯学科6年生は卒前臨床実習生として指導医の先生の下、歯科総合診療部での患者様の診療や、各専門科での見学と実習に日々取り組ませて頂いています。

この原稿を書いているのはちょうど6月の半ばですが、昨年の10月に臨床実習がスタートし、先輩から引き継いだ患者様に初めてお会いしてからおよそ8ヶ月が過ぎました。

臨床実習中にこなさなければならない課題であるミニマムリクワイアメントの達成数も増えてきましたが、あと一月もすれば学生生活最後の夏休みをはさんで、そこからまた一月程で下の学年への引継ぎが始まり、いよいよ44期生の臨床実習も終わりが近づいてきているという事を少しずつ考えるようになってきています。

また、自身の診療や見学以外にも交代制で受け持つ支援、予診、エックス線、受付の4つの係を10月から学生は行ってきたのですが、そちらについても今回紹介していきたいと思います。

支援係は、他の学生が診療している際に、接着用のセメントや型取り用の印象材といった、チェアサイドで用いる歯科材料を素早く術者が使えるように準備したり、電子カルテへの診査結果の記録、バキューム等の支援を行います。練和方法や操作時間など、歯科材料の事を理解して正しく扱う必要があり、下手な操作をすれば患者様と術者に迷惑をかけてしまう為、材料の扱い方をよく理解した上で、術者との事前の打ち合わせが必要な係でもあります。

予診係は、指導医と研修医の先生方主導の急患対応の補助係として、患者様を予診室へご案内したり、先生方の行う口腔内診査の記録などを担当

しています。

患者様への問診の手順や態度、口腔内診査の方法などを間近で見学できる場でもあり、自身の診療にも活かせるため、横で見ていると学ぶところが多いです。

エックス線係は、エックス線撮影室での撮影や現像の補助を行います。数多くのエックス線画像を見ることができ、撮影している様子を見てその手法を学ぶだけでなく、画像所見について撮影技師の方達と話しをする事もあり、読影の勉強にもなります。

受付係では、受付カウンターでの電話対応や来院された患者様への対応をクラークの方達と連携して行っています。このように、診療ユニットから少し離れた病院業務の一端にも係を通じて参加させて頂くことで様々な角度から歯科診療に触れさせて頂いています。

チェアサイドでの診療とそれに伴う技工物製作、各科の見学と実習、4つの係、これらが臨床実習の柱となって目まぐるしく日々が過ぎていきます。皆、手帳等でスケジュールを管理し、診療や見学実習と係の仕事が重ならないよう調整しており、私達の控え室である学生技工室ではクラスメイトの所へ係の日程の交換ができるかどうか、手帳を片手に尋ねてまわる光景は今でも毎日のように見られます。

また、卒業後の研修先を決めるマッチングの申し込み期間も間近に迫り、臨床実習の合間をぬって、新潟大学病院以外の施設見学に行ったり、マッチング試験の対策をしたりと自分の将来を考えて進路を選択しなくてはならない時が来ている事を実感しています。

そして進路を決めたとしても、歯科医師国家試



験に合格しない事には何も始まらない為、国家試験対策も並行して進めておかななくてはなりません。

去年の今頃も CBT という試験の対策で、過去に出題された問題集などは使っていましたが、国家試験対策のそれともなると量も質も大きく増し

ています。

こうして原稿にまとめていると、改めてやらなければならない事の多さに不安も感じますが、この夏を乗り越って臨床実習をしっかりと修了させ、卒業の日を44期の皆で笑って迎えられよう、これからの日々を過ごしていきたいと思います。





## 歯学生のいま（2年）

口腔生命福祉学科2年 宮川 浅見

2年生になり約3ヶ月が経過しましたが、授業の内容はほぼ歯科衛生士としての仕事に関連があることをメインにして進んでいます。中でも私たち口腔生命福祉学科の学生の将来の仕事に関して、特に詳しく知ることができるのは“歯科衛生士概論”や“早期臨床実習ⅡB”の授業で、これは歯学部先生や外部から招いた講師から仕事の内容を聞き、実際に現場に出向いて、職員としての仕事の様子や働き場の施設を見ることができる授業となっています。現場では私たちが直接に施設の雰囲気を感じ、授業の中で実際に働いている方々の声を聞かせてもらうことでより一層職務内容についての理解を深めることができます。また、それだけでなく、今後の授業や学習に対する意識の向上にもつながると思います。その他には、私たちが授業の中で訪問させてもらった施設はこの学科が毎年訪問させてもらっていて、先生方も認めるほどの施設環境の整った場所です。こういった施設を見せてもらうことで、自分たちが仕事をするときどのような環境で働きたいのか、また将来職員として求められる姿についても考えることができました。

私たちの学科は歯学部でありながら社会福祉士の資格も取ることができるため、学科の中でも就職先によってかなり仕事が変わってきます。そのため入学時には卒業後についての明確なビジョンを持った人は多くなかったと思いますが、このような授業を受けて現時点での自分が就きたい仕事について考えるきっかけになったと思います。逆に、もともと就きたい仕事があった人でも、知らなかった職業やその内容を知ることによって選択の幅が広まり、改めて考え直すことができたと思います。

また、私たちは「人体のしくみ」という講義も受けています。この講義では、先生の講義だけではなくPBLを通してグループ学習に専念した

り、歯のデッサン、歯型彫刻をしたり、また先輩方の人体解剖の見学をしたりもします。中でもPBLが「人体のしくみ」の大部分を占めるのですが、自分たちで課題を発見して自主学習を行い、グループ内で学習してきたことを討論することでより理解を深めることができます。さらに、我々が将来歯科衛生士、社会福祉士を目指すに当たって、人と対話する能力が重要になってきます。患者様の話を聞いて症状を判断し、的確なことを歯科医師に伝えられるか、また患者様にとって分かりやすく説明することもできるようにならなければいけません。職場の衛生士同士でもお互いに話し合う場面が多いと思います。自分が歯科衛生士という職業に就いたときにこれらのことをうまく実践できるかどうか、その基礎となるのがPBLであると考えています。疑問抽出・仮説立証・課題発見・課題解決の際、自らの意見を進んで発表し、またグループ内の友人の意見も交えて話ししていくことで対話力を磨いています。

今年の4月に五十嵐キャンパスから旭町キャンパスに移動して、24人（内大部分が女子）という少人数で毎日講義を受けること、昨年はあまりなかった1限からスタートの講義が多いこと、講義の内容が専門的になったこと等、初めは慣れない部分が多かったのですが、あれから3ヶ月が経とうとしている今、ようやく旭町キャンパスの生活に慣れ、時間に余裕もできるようになってきました。卒業後は医療従事者として働くためにも現在最も力を入れなければならないのは言うまでもなく「勉強」ですが、勉強と両立して部活動やアルバイト、趣味に力を入れることも学生である今しかできません。今しかできないことを充実させながら、立派な医療従事者になるための勉学を怠ることなく、この大学2年生の一年間を過ごしたいと思います。

# 歯学生のいま（3年）

口腔生命福祉学科3年 藤井佳菜

口腔生命福祉学科3年生が最近行った実習やクラスのみんなのことについて紹介したいと思います。

## 〈実習について〉

2年生になった時も、五十嵐キャンパスから旭町キャンパスに変わったことで本格的に歯科の勉強が始まり、授業に大きな変化がありました。3年生になってからも変わったことがたくさんあります。それは、福祉の勉強が始まったことや、実習が増えたこと、施設見学に行き、実際に施設の方たちと交流する機会が増えたことです。

いちばん最近実習に行った場所はあさひ幼稚園です。対象者把握と集団指導のために2回、行ってきました。対象者把握では、まずは子どもたちと仲良くなるために、おまごなどをしてみんなで楽しく遊びました。しかし、みんなと遊んでいる間、一人だけずっと先生にくっついていて、わたしたち学生が話しかけるとさらに目をうるうるにして泣き出してしまいう子がいました。そういった子と上手にコミュニケーションがとれる先生を目の前で見て、本当に幼稚園の先生ってすごいんだなあと感じたし、次の集団指導で、歯科保健指導をする以前にうまく子どもたちと接することができるのか不安にもなりました。

1ヶ月後の集団指導本番では、幼稚園のクラス別での歯科保健指導のほかに、口腔3年生全員で、歯磨きの大切さを伝える劇をしました。きれい好きなみさちゃんとなまけものしおりちゃんがいて、歯磨きをしなかったしおりちゃんの歯におし歯菌がやってきますが、ここで歯ブラシマンが登場しておし歯菌を退治し、歯磨きの大切さを伝えるというストーリーです。わたしは歯ブラシマンイエロー（ほかにレッドとブルーとピンクがいます。戦隊ものをイメージしてみました…）の役を

しましたが、思った以上に幼稚園の子どもたちが興味をもって劇を見てくれていたし、その後のクラス別での歯に関するクイズや仕上げ磨きをしたときには対象者把握のときに泣いていた子も参加してくれて、とてもうれしく思いました。楽しく歯を磨いてもらうために、何か子どもの心をひきつけられるような物を使うのも大切だと実感しましたが、やはり笑顔で、子どもたちと同じ目線で、楽しく遊んだり話をしたりすることがわたしたちの伝えたいことに少しでも耳を傾けてもらえるいちばん大切な方法の一つだと思いました。この経験をこれからの保健センターなどでの実習でも生かしていきたいと思います。

## 〈口腔生命福祉学科3年生のみんなについて〉

大学に入ってから2年以上がたち、みんなで試験を乗り越えて、実習にも取り組んで、どんどん3年生のみんなの結束力は強くなってきていると思うし、本当にみんなの仲が良いなあと感じています。仲間に恵まれ、この学科に入ってよかったと心から思います。ではそんなみんなを順番に……。

しっかり者のまな、美形ひろ、ポップなあっきー、癒し系おがち、ゆかいなけいちゃん、心配りまっきー、クールビューティーちか、可憐なきょんちゃん、アイドルなな、ダンサーらんらん、アクティブえりえむ、ギャグ線かおり、キレッキレのもえぴー、おしゃれなあかね、ディズニー大好きちせ、的確ツッコミえりおー、ムードメーカーあかつちゃん、萌え萌えわだし、友達思いなみくちゃん、思いやりあふれるみさちゃん。

これからは勉強でも実習でも、今までより忙しくなるし、大変なこともたくさんあると思いますが、これまでの経験を生かしながらみんなと一緒に頑張っていけたらと思います。

# 4年生の今

口腔生命福祉学科 4年 田 中 結

大学に入学して早くも4年目となりました。口腔生命福祉学科は学年が上がるごとに忙しくなるといわれていますが、その噂は本当で、予想以上に密度の濃い日々を送っています。

その中心は何と言っても臨床実習です。週4日・毎週異なる診療科で、患者様や病院スタッフと接しながら、歯科衛生士としての業務を学んでいます。昨年11月に新潟大学医歯学総合病院の歯科外来棟が移転し、私たちの実習場所は大きく変わりました。これまで卒業した先輩からの引き継ぎ資料は無用の長物となり、右も左もわからないまま新しい外来棟に投げ出され、おまけに病院への連絡通路は工事中で、初めは戸惑いを隠せませんでした。そんな状況を支えてくれたのが、クラスの結束、病院スタッフの皆さんからのご指導、そして患者様の温かい心遣いです。クラスメートそれぞれが診療科ごとの引き継ぎ資料を率先して作り、実習が終わった放課後に遅くまで教え合う光景が続きました。歯科医師や歯科衛生士、看護師をはじめとする病院スタッフの皆さんには、ことあるごとに助言をいただき、医療現場ひいては社会に慣れていない私たちに、知識や技術を叩き込んでくださっています。患者様は、学生実習に理解を示し協力してくださるばかりでなく、診療後に笑顔で「ありがとう」と言ってくださることもありました。このような方々に恵まれ、常に感謝の気持ちで実習に臨んでいます。毎日いろいろなことが起こりますが、その度に勉強させてもらっています。

大学での病院実習に加えて、開業医による訪問歯科診療や、幼稚園での歯科健診・フッ化物塗布に同行させていただくこともあります。見慣れた大学病院とはまた違った歯科診療現場を見学することができ、視野が広がりました。また患者層やニーズの幅広さも実感しました。

口腔生命福祉学科の学生が学ぶのは歯科だけではなくありません。3年次に履修した社会福祉の授業を踏まえ、4年生では社会福祉現場実習を行います。特別養護老人ホーム、身体障害者福祉センター、知的障害者通所授産施設、地域包括支援センター、児童相談所等で約1ヶ月間実習をします。私はまだ行っていないのですが、これまで学んできた福祉専門職としての相談援助技術を実践で生かせるよう、現場でたくさんの方のことを吸収したいと思っています。

もう一つ4年生に与えられた課題は、特論です。各自テーマを設定し、文献検索、調査等を行い、論文形式の報告書を作成します。11月の完成・12月の発表に向けて、英文原著論文と格闘しているところです。

ここまで授業の内容を紹介してきましたが、そんなカリキュラムの傍ら、部活動にも励んでいます。私が所属しているのは、全学の新潟大学管弦楽団です。旭町の池原会館や医学部棟で練習を行っており、忙しくても部活動に参加しやすい環境にあります。夏と冬の年2回、りゅーとぴあコンサートホールで演奏会を開催しており、さらに今年の12月には東京公演も開かれます。フルートを始めて10年目となる今年、大きな舞台で演奏できることを楽しみにしています。皆さん是非お越



してください。

現在私は就職活動も同時進行しています。この原稿を書いている今も、翌週に採用選考を控えており、正直気が気ではありません。クラスでも国家試験や採用試験の話題が飛び交うようになり、先生方に「おまえは就職どうするの？」と度々聞かれるようになり、否が応でも卒業後を意識せざ

るを得ません。

私はこの学科で学んだことに誇りを持ち、自分の可能性を模索し、どんな環境にも積極的に飛び込みたいと思っています。そして今できることを大切にし、残りの大学生活を楽しみたいと思います。

